

会 議 概 要

会議の名称	平成29年度第3回社会教育委員会会議
開催日時	平成29年12月15日(金) 13時30分 開会 16時20分 閉会
開催場所	湧別町文化センター さざ波 中会議室
出席者名	宮澤委員長、石垣副委員長、梅田委員、高柳委員、多田委員、 安瀬委員、平野(寿)委員、三品委員、金子委員、上原委員、 杉原委員、武藤委員、米本委員 13名 教委～教育長、星課長、田中館長、中島副館長、根子補佐 藤本係長、杉森係長、北村係長、太田主任、林主任
欠席者名	深谷委員、佐藤(あ)委員、関谷委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 議案第1号 平成30年度社会教育事業について 議案第2号 第2次社会教育中期計画の策定について 4. その他
会議資料	平成29年度第3回社会教育委員会会議議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記) <input type="checkbox"/> 無
備考	

結果要旨

辞令交付～森谷委員が退任されたことにより、後任の米本智昭氏に教育長より辞令交付が行われた。

米本さん自己紹介、その後休憩時間にそれぞれ自己紹介を行った。

1. 開 会

2. 委員長あいさつ（宮澤委員長）

それぞれの部会で中期計画を協議していただきありがとうございました。今回まとめたものを全体で協議したい。

3. 教育長あいさつ（刈田教育長）

コミュニティスクールの開始や来年度から芭露学園にて小中一貫教育が始まる。社
教委員の皆様もより深く学校に関わりを持ち、協力をお願いすることも増えてくる。

4. 議 事

※藤本スポーツ振興係長が、15 時より別の会議があるため、スポーツに係る部分を先に協議した。

●第2次湧別町社会教育中期計画（案） P25

○スポーツ活動・スポーツ施設の推進目標と推進項目

推進目標：明日の元気は、今日のスポーツから

（宮澤）他の推進目標は「(テーマ「スポーツ」)は～○○、○○しよう」となっているので、全体で見るとスポーツだけ、一つ浮いていて、この目標のままではふさわしくないと感じられる。

また、文化財・博物館についても目標が他の様式と合っていないが、事前に部会で目標を話し合っていて、文化財保護、博物館活動の視点から他の目標と同じような様式での設定は難しいとの結論となり、サブタイトルを付ける方法を取って、推進目標とした。

今回のスポーツの目標は、スポーツ推進委員の部会で決めており、オブザーバーの私（宮澤）と石垣副委員長が会議に招待されず、スポーツ推進委員だけで決めている。

（石垣）この目標を決めた経緯やスポーツ推進委員の想いについて教えてほしい。

（藤本）部会にてスポーツ推進員で話し合い決めた。

（宮澤）第1回と第2回の会議にオブザーバーとして参加したが、スポーツ推進員の考え方は、チャレンジスポーツ等のスポーツ事業に参加することに意義があり、計画を考えることなどは私達の仕事では無いという考えを持っていると感じた。中期計画の話し合いで求めているのは、どうやったら町民のスポーツの普及や、運動を行って健康になれるかを話し合ってもらう事を望んで会議に参加したが、そうではなかった。そして、3回目の会議には招待されず、私達が知らない間にこの目標になった。

（藤本）3回目の会議では、だいぶ推進委員の意識が変わり、受け身にならず事業の話し合いや、今回の目標を協議することができた。

（星）スポーツ推進委員が考えた目標を、今回の社会教育委員の会議で更に話し合い変更しても構わない。

（宮澤）私達が考えた前回のスポーツの目標は他の目標と様式が統一されていたが、今回どうしてこのような目標に変更になったのか、どういう想いがあるか目標を設定したのか教えてほしい。また、事務局は、他の目標と相違があると感じなかったのか？

（梅田）図書館の目標は、前回から変わっている。それは、前回の「町の情報拠点」の役割から、今回の「町の憩いの場」に役割が発展したと協議され目標の変更となった。

- (星) 今回の中期計画策定の話し合いからスポーツ分野をスポーツ推進員、図書館の分野を図書館協議会委員で部会を構成することにした。それぞれの話し合った結果をまとめて今回の社会教育委員の会議で内容をはかり、変更する箇所があっても問題は無い。スポーツ推進員が考えた目標について、他の目標との統一感が無く、事務局として推進委員の会議の場で訂正出来なかったことは申し訳ないと思う。この目標については、スポーツ推進委員が実直に意見を出しあい話し合った結果に出された目標である。
- (平野) スポーツ推進員が考えた目標を尊重し、文面、ニュアンスを残しつつ統一感のあるような言葉が無いか話し合って決めてはどうか。
- (杉原) サブタイトルをつけるのはどうか。「体をうごかしましょう」等
- (宮澤) 「明日の元気は、今日のスポーツから」に続く言葉を考えるのがいいのでは「○○しよう」等
- (高柳) 「心身健康」はどうか
- (宮澤) それだと後半に続かない。
- (多田) 「みんなで楽しもう」「みんなで体を動かそう」などはどうか
- (宮澤) では、推進目標は「明日の元気は、今日のスポーツから みんなで体を動かし楽しもう」にしましょう。

○平成30年事業計画（スポーツ分野）について

藤本係長より説明

- (平野) 上野カップ柔道大会には、畳の借り上げ料など多額の費用がかかっている。費用対効果を考えて、地元で宿泊等のお金を落としたり、中高生がプロの柔道家の技を見る授業を実施するなど、地元で還元する方法を検討願いたい。
- (梅田) 合宿が増えている。町内の業者（宿泊等）や町民（学習機会の提供）に還元できれば良いと思う。宿泊はどこに泊まっているのか。
- (藤本) 福祉会館やレイクパレスに泊まっている。学習機会の還元についても検討したい。
- (高柳) 中湧別の屋外ゲートボール場の使用していない用地の活用について考えているか。
- (星) ゲートボール協会と協議し、2面は使用しないので、別の用途で使用してよいと了承を得ている。先日の町政懇談会にて、「公園としてはどうか」という質問があったが、町長より「今後検討する」との答弁を行った。状況を見て検討したい。
- (高柳) 団地に公園が無いので作って欲しいとの意見があったので、検討してほしい。

●議案第1号 平成30年度社会教育事業について

各担当より説明

- (平野) 図書館宅配サービスとあるが、対象者はどのような人か。高校生で開館時間に行けない人等はどうか。
- (北村) まだ、要項は作成していないが、町内で「交通手段がない」、「健康上の都合」、「歩行が困難」等の理由で図書館に行きたくても行けない人を想定している。

●議案第2号 第2次社会教育中期計画の策定について

それぞれの部会の担当職員より主な点を説明

○家庭教育の推進目標・推進項目

- (梅田) 家庭教育が重要になっている。気楽に参加できる仕組みづくり、悩みを一人で抱えるのではなく、お互い支え合う事ができればと話し合いの中で意見がでた。こちらから出向いていくことがこれからは必要と思い推進項目を設定した。

○少年教育の推進目標・推進項目

(平野) コミュニティスクールへの関わり、学校から協力要請があった場合に社会教育として積極的に参加協力を行うという項目を追加させて頂いた。

(金子) 開盛小にてコミュニティスクールの取り組みが始まった。これから社会教育に願いすることが増えてくると思います。ご協力をお願いしたい。

○青年教育の推進目標・推進項目

(平野) 我々社会教育委員の努力目標になるかもしれないが、青年の考えを知る機会を設けたいと思い、青年との交流・意見交換の機会を作ると設定させて頂いた。また、青年がどの年齢からどこまでが青年かという意見もでた。

○成人教育の推進目標・推進項目

(梅田) コーディネーターの育成が必要であると感じている。人材バンクや地域の隠れている人材を発掘し紹介する機会を設けることで自主的に活動する団体の支援などが出来るのではないかと。

(宮澤) 湧く湧く(生涯学習情報誌)で人材バンクや学びガイドの様な情報を少しずつ紹介していくという話もでていた。

○高齢者教育の推進目標・推進項目

(梅田) 高齢者は、知識が豊富、高齢者の持っている知恵を活かし、有効活用により地域の財産となる。

○芸術文化活動、文化施設の推進目標・推進項目

(宮澤) 芸術文化は、想像力や豊かな心を育てる。ロボットには出来ないこと、未来を生きるヒントにつながる。

(梅田) 自分たちの活動が生きるヒントになっていることはとても素敵な事だと感じた。

○図書館活動の推進目標・推進項目

(宮澤) 2つある図書館を何とかして残したい。学び、楽しむ図書館を目指して目標を設定した。

(梅田) 2つある図書館の特徴を生かしたものにしたい。中湧別は靴を脱いでくつろげる空間、湧別は映像施設が整っている。雑誌についても多く揃っているが、同じタイトルが2つの図書館にあるのか。

(北村) タイトルが被らないようにしている。また、雑誌には付録がついてくる場合があって、付録は年に1度の古本市で配布しており、人気がある。今後、雑誌紹介のリストを作成し、利用しやすいように努めたい。

○文化財保護活動・博物館活動の推進目標・推進項目

(宮澤) 町の総合計画では、収蔵庫について記載されている。中期計画においても、現在の収蔵庫が老朽化しているため、建設を検討すると記載した。

(梅田) 収蔵庫は必要。町の宝を保管する施設は必要と思う。

○生涯学習の基盤整備と社会教育施設等の整備の推進目標・推進項目

(平野) 生涯学習ガイドブック等の発行を検討する。個人情報等を考慮し、情報収集を進める。

(宮澤) 湧く湧くで集めた情報を掲載し、それをまとめたものの発行を検討する。

○今後の予定について

杉森より説明

- ・ 12月中に答申（委員長、副委員長より教育長へ）
- ・ 1月の教育委員会にて答申の報告
- ・ パブリックコメントの募集
- ・ 計画に修正が生じ、必要な場合は社会教育委員の会議を開催し、意見を求める
- ・ 公募結果の公表
- ・ 3月に結果を教育委員会へ提案
- ・ 印刷し発行する。（200部を予定）

●その他

- ・ 平成30年度社会教育委員の研修会・会議について

⇒了承

- ・ 児童センター運営委員会委員の推薦について
（森谷委員退任による推薦）

⇒梅田委員を推薦することで決定した

- ・ 芭露畜産センターの開館時間の変更について

別紙資料に基づき星課長より説明

（平野）夏に外で活動している団体は、冬に体育館等の屋内施設を使用する。冬のほうが利用率が多いのではないか。

（星）利用実績をみて、開館時間を決めさせて頂いた。定期的な使用団体については了解を得ている。葬儀以外、芭露地区の団体の利用は殆ど無く、他の地区から芭露まで来ている。また、時間変更に関してパブリックコメントを実施する。

終了（16時20分）

平成29年度

第3回社会教育委員会議案

と き 平成29年12月15日(金)
午後1時30分～

ところ 文化センターさざ波 中会議室

<会議日程>

(辞令交付)

1 開 会

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

4 議 事

議案第1号 平成30年度社会教育事業について
平成30年度社会教育事業計画(案)

P 2 ～ P 1 1

議案第2号 第2次社会教育中期計画の策定について
別添 第2次社会教育中期計画(案)

5 その他

- ・平成30年度社会教育委員研修会・会議について
- ・児童センター運営委員会委員の推薦について

P 1 2

6 委員長あいさつ

7 閉 会

湧 別 町 教 育 委 員 会

社 会 教 育 委 員 名 簿

役 職	氏 名	住 所	出欠	備 考
委員長	宮 澤 道	北兵村二区		
副委員長	石 垣 誠 一	港 町		
第1 専門部会長	平 野 寿 雄	上湧別屯田市街地		
第2 専門部会長	梅 田 唯 士	上湧別屯田市街地		
第3 専門部会長	深 谷 聡	計呂地		
	多 田 恵 美 子	緑 町		
	佐 藤 あ け み	登栄床		
	関 谷 正 樹	芭 露		
	三 品 博 恵	南兵村三区		
	高 柳 雅 一	北兵村二区		
	安 瀬 勇	上湧別屯田市街地		
	金 子 徳 郎	開 盛		
	上 原 和 恵	北兵村一区		
	武 藤 智 和	開 盛		
	杉 原 武 純	旭		
	米 本 智 昭	北兵村三区		

教育委員会

教育長 刈田智之

社会教育課長 星 義孝、課長補佐 根子敏男

社会教育係長 杉森伸一、社会教育係主任 太田雅史

スポーツ振興係長 藤本祐司、スポーツ振興係 野村亮太

文化振興係主任 土佐信太郎

図書館長・ふるさと館 J R Y 館長 田中 仁

管理係長 高橋結香梨、奉仕係長 北村公樹、奉仕係主任 茂利泰史

ふるさと館 J R Y 副館長 中島一之、学芸係主任 林 勇介

平成30年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容	予算額
基 盤 整 備	生涯学習情報の収集・提供・相談体制の充実	年 間	—	○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の発行（毎月） ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情報」の発行（2カ月に1回）（佐呂間町が当番町） ・町ホームページによる事業PR ○相談体制の充実 ・学習に関する相談を受けられる体制整備に努める。	「湧く湧く」 印刷費 1,011千円 「なな・なんと情報」 負担金200千円 （印刷費）
	指導者の発掘・養成・活用	年 間	—	多様化する住民の学習要求に対応するため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—
	団体活動の支援・育成	年 間	—	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—
	生涯学習振興奨励事業	年 間	—	（生涯学習住民活動推進事業） 町民によるグループ・サークル等が自主的に町民に対して行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。 （補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%）	4件 390千円
	施設の整備・運営・連携	年 間	—	施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	整備計画別紙
家 庭 教 育	家庭教育研修会	12月頃	文化センターTOM	家庭教育学級の会員及び児童生徒を持つ親が一堂に会し、家庭教育の大切さについて学習を深める機会を提供する。	講師謝礼 100千円 需用費8千円
	家庭教育学級の活動支援	年 間	各学校ほか	学校単位で開講している家庭教育学級の自主的な学習活動の活発化、また今日の課題への対応など親の姿勢や役割についての学習が深まるよう支援する。湧別地区小学校及び中学校の設立について呼びかけをする。	運営費助成 20千円×5学級 =100千円
	家庭教育推進員会議	7月 11月 教頭会議後	文化センターさざ波	家庭教育機能の充実を図るため各小中学校教頭を家庭教育推進員に委嘱し、情報交換や今後の方策を探り、家庭の教育力向上に努める。また家庭教育推進員を中心に保護者を対象とした家庭の教育力を高める学習機会提供に努める。	—
	家庭教育相談	年 間	相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供する。	—
少 年 教 育	児童宿泊研修会	6/14(木) ~15(金)	ネイパル北見	全校の5年生児童を対象に、自然の家の様々な自然体験活動と、宿泊を伴った集団生活を通して、自立・協調・奉仕の尊さと喜びを学ぶことで、社会性を培うとともに、学区外児童の友好と親睦を深める。	1人2,500円 1/2助成 94千円 借上料80千円
	子ども会の育成・援助	年 間	—	各地区の子ども会やその連合組織である青少年指導センターの活動を支援し青少年健全育成に努める。	補助金 400千円
	第1回子ども会リーダー研修会	7月下旬	五鹿山公園	地域子ども会が自主的、主体的な運営と活動が進められるよう、地域子ども会の役割を認識させるとともに、リーダーとしての心構えや自覚を促し、そのために必要な知識や技術を習得させる。	青少年指導センター会計から支出
	第2回子ども会リーダー研修会	3月下旬	紋別市総合研修センター（仮称）		

平成30年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容	予算額
少年教育	北海道ジュニアリーダーコースへの派遣	8月上旬	ネパール北見	ネパール北見主催の研修会に各市町村から中学生・高校生を派遣。フィールドワークやワークショップ等を通して地域活動やまちづくりに参画する青少年リーダーを養成する。	参加経費等10千円 ×3人＝30千円
	新春交歓カルタ大会	1/20（日）	農村センター	日本古来の伝統の遊びを通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。	報償費30千円 需用費65千円
	【提携15周年記念】 湧別町・新篠津村友好都市少年交流事業	8月上旬	新篠津村	両町村の児童の派遣活動を行い、自然体験学習や産業体験学習を通して、お互いの町の自然や産業等の違いや魅力を学び、交流の輪を広げる。 リーダーとして、中・高校生を参加させる。	報償費105千円 需用費5千円 借上料333千円
青年教育	青年団体の育成・援助	年 間	青年会館ほか	自主的な活動を展開している青年団体協議会の活動支援に努める。子どもを対象とした冬季事業などを開催し、地域を活性化する活動を行っている。	補助金 160千円
	【提携15周年記念】 湧別町・新篠津村青年友好都市交流事業	未 定	新篠津村	お互いの青年団が協議して、事業内容を企画決定する。青年団体同士の交流を通し、町の友好を深めるとともに青年団の活性化を図る。	補助金 100千円
	成人式	1/13（日）	文化センターさざ波	新成人を祝い励ますとともに、式を契機に社会人としての意識高揚を図る。 ※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費416千円 需用費41千円
成人教育	第42回湧別町民大学	9月～11月頃	文化センターTOM	実行委員会により実施。各ジャンル講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会提供に努める。人材育成の観点から、講師との接点を増やす取り組みを意識する。	運営費助成 2,000千円
	第8回ふるさと講座	未定		湧別町にこだわった歴史、産業、地域等について学ぶ機会を提供する。 ふるさとから学ぶ会との共催。	講師謝礼 20千円
	第7回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅	未定		町にある、お宝の魅力、すばらしさ、価値を知る方々がおすすめ人となり、町のお宝をバスツアー形式でたずね歩く。	講師謝礼 10千円
	P T A団体への援助	年 間	—	各学校のP T Aやその連合組織である町P T A連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円
	ボランティア団体との連携	年 間	文化センターさざ波ほか	はまなすボランティアサークルは自主的に奉仕活動を行っており、必要に応じて学習活動を支援する。	—
高齢者教育	チューリップ生きがい大学の開設	年 間	文化センターTOM・さざ波ほか	高齢者が生きがいと充実した生活を送ることができるよう学習と活動の機会提供に努める。平成30年4月に統合予定。自主活動としてのクラブ活動も支援する。	報償費337千円 需用費51千円 借上料1,304千円
	世代間交流事業・社会活動参加奨励	年 間	学校ほか	小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	—

平成30年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容	予算額
芸術・文化活動の振興	文化団体の育成援助	年 間	—	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助を行う。	補助金 450千円
	鑑賞機会提供団体の育成援助	年 間	文化センター	A.良いもの見よう聞こう会の活動支援 B.企画委員会ビッグ・ウェーブの活動支援 C.その他実行委員会等への活動支援	補助金 11,000千円
	幼児芸術鑑賞会	未 定	児童センター	幼児対象（2日 2公演） 公演内容 未 定	公演料 500千円
	小学生芸術鑑賞会	未 定	文化センター	小学生対象（1公演） 公演内容 未 定	公演料 500千円
		未 定	紋別市民会館	小学校高学年対象 公演内容 未 定	0円
	中学生芸術鑑賞会	未 定	文化センターさざ波	中学生対象（1公演） 公演内容 未 定	公演料 500千円
	子どもミュージカル体験事業	1/5～11 発表会 1/11(金)	文化センターTOM	子どもを対象に、専門家の指導によるミュージカル演劇の練習から発表までを体験することにより、芸術文化を楽しむ素養を養い、コミュニケーション力の向上と連帯感の醸成を図る。	事業費 1,100千円
文化芸術作品展示会等の奨励	年 間	文化センター	湧別町文化連盟加盟団体や町民個人を中心に、絵画や写真などの展示を実施し、芸術文化活動の振興を図る。	—	
カルチャー教室	年 間	町内施設	子どもから大人までを対象に趣味や一般教養など町民のニーズに合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 70千円	
大会の開催等	第33回サロマ湖100kmウルトラマラソン	6/24	湧別総合体育館裏	100kmスタート午前5時00分（100kmの部） 総合体育館裏（東道路上） 6/23にはウェルカムパーティー・開会式を開催	負担金3,000千円
	湧別町少年柔道大会「上野カップ2018」	10/7	湧別総合体育館・武道館	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野姉妹のほか、現役の女子柔道の著名人を招致する予定。	歳入総額 685千円 歳出総額 未 定
	町民体カテスト	11月予定	中湧別総合体育館	町民に対してスポーツや運動を継続して続けることの大切さや健康づくりを高めるきっかけづくりを図る。	スポーツ推進委員 報酬60千円
	第43回町民300歳バレーボール大会	12/2	湧別・中湧別総合体育館	自治会対抗形式9人制バレーボール大会	消耗品26千円
	新篠津友好都市提携15周年記念少年野球大会	未定	新篠津村	湧別町・新篠津村との友好都市提携15周年を記念し、小学生を対象に少年野球大会を開催し、児童間の親睦と交流の輪を広げる。 （湧別マリナース、中湧別野球少年団参加予定）	参加費6千円×負担率1/2 =3千円 車借上料 223千円

平成30年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
スポーツ教室・講習会事業	ジュニアスイミングスクール	7月	湧別プール（第1回）	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。	講師謝礼 48千円 スポーツ推進委員 報酬24千円
		9月	湧別プール（第2回）		
	ノルディックウォーキング講習会	未定	百年記念広場	正しいウォーキング方法により、安全で効率の良い運動を継続して行えるよう、ノルディックウォーキング用ボールの使用に関する基礎知識を学ぶ。 講師：ノースヒーロー 高倉 孝良 氏	講師謝礼20千円
	町民ランニング教室	6月上旬	未定	ランニングやウォーキングの基本姿勢から高度な技術、さらには運動前後のストレッチを習得することで、運動能力の向上や怪我の予防、運動を始めるきっかけづくりを図る。 講師：作. AC北海道 代表 作田 徹 氏 サポート：作. AC北海道 菊地 真司 氏 対象：中学生～一般（2回程度の教室を予定）	講師謝礼100千円 （2名分の謝礼）
	少年少女初心者スケート教室	1月予定	湧別町芭露スケートリンク	初心者に対してスケートの楽しさを味わわせるとともに、技法を習得させる。	講師謝礼 12千円 スポーツ推進委員 報酬12千円
クロスカントリースキー教室	1月予定	五鹿山スキー場	スキーの楽しさを味わわせるとともに、初心者から上級者まで幅広い技法を習得させる。 講師：阿部雅司（リレハンメル五輪金メダリスト）	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬9千円	
スポーツ推進委員事業	チャレンジスポーツスクール事業	5月～3月	湧別総合体育館他	低学年から様々なスポーツに触れることで、自分に合ったスポーツを見つけ出すきっかけづくりと、学校を越えた友達づくりの一助とする。 5月 入学式・各種鬼ごっこ（湧別総合体育館アリーナ） 6月 フットベース（湧別総合体育館裏） 7月 室内雪合戦（湧別総合体育館アリーナ） 7月 キャンプ（湧別総合体育館裏） 9月 パークゴルフ（湧別運動公園） 10月 風船バレー（湧別総合体育館アリーナ） 11月 ドッジボール（湧別総合体育館アリーナ） 12月 フロアボール（湧別総合体育館アリーナ） 1月 スケート&氷上ホッケー（芭露スケートリンク） 2月 タグラグビー（湧別総合体育館アリーナ） 3月 ミニ運動会・卒業式（湧別総合体育館アリーナ）	講師謝礼 フロアボール 10千円 タグラグビー 10千円 スポーツ推進委員 報酬312千円
	巡回スポーツ指導	随時	町内	自治会・老人クラブ等にスポーツ推進委員が出向き、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。	スポーツ進委員 報酬24千円
	スポーツ推進委員研修	随時	-	必要に応じてニュースポーツ等の研究や、それらを発信するための実技研修を行い、委員としての資質向上を図る。	スポーツ進委員 報酬120千円 費用弁償98千円
団体活動の育成援助等	少年スポーツ団体の育成援助	年間	-	少年団本部への補助	補助金600千円
	一般スポーツ団体の育成援助	年間	-	体育協会への補助	補助金685千円
	大会出場助成	年間	-	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助成する。 （湧別町スポーツ・文化遠征費補助金）	補助金2,000千円
	合宿誘致助成	年間	各施設	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を図る。 （湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金）	補助金3,327千円 詳細は別紙関連事業に記載のとおり
施設の整備活用その他	施設の整備	年間	各施設	施設の点検、適正な維持管理を図る。	詳細は別紙社会教育施設整備計画のとおり
	施設の活用	年間	各施設	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設の有効活用を図る。	学校開放運営報償 90千円
スポーツ安全保険の加入促進	随時	-	広報及び事故手続き等の補助	-	
	図書館資料の収集、整理、保存	通年	両館	・町民ニーズに合った図書、逐次刊行物、視聴覚資料等を計画的に幅広く、豊富に備え、保存する。常に新鮮で適切な蔵書構成を維持する。 ・本の修理ボランティア活動	資料費（図書、雑誌、新聞、視聴覚） 8,280千円

平成30年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額
図書館	利用促進、読書機 会の提供	通年	両館	調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。 ・小中高連携、学校支援の強化 ・図書館見学の受け入れ ・インターンシップ ・特別開館（春、夏、秋、冬休み期間の月曜日）	—
				新着図書案内や図書館行事など、最新情報の提供に努める。 ◎読書通帳提供 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの活用	
				◎宅配貸出サービス 来館が困難な町民に対して宅配便を活用して個別に配送 貸出を行う。	消耗品費 メールバッグ 53,000円
図書館	ブックスタート	毎月1回	健診会場	4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタート パック（絵本などが入ったバッグ）をメッセージと共に手 渡す。 ◎5歳児健診時に絵本を1冊とブックガイドを渡す。 協力（バッグ制作） ・ルピナスの会 協力（読み聞かせ） ・リーディング倶楽部たんぼぼ ・湧高ボランティア同好会	報償費 4か月 60人分 75千円 5歳 60人分 65千円
	絵本くらぶ	年間 (毎月1回)	両館	3歳までの乳幼児がいる家庭におすすめ本セットを宅配 する。（登録制）	
	第9回湧別町読書 感想文・感想画コ ンクール	6月～3月	両館	読書に親しみ、読書の楽しさを体験するとともに、読後 の感動を文章や絵画に表現することとおして、豊かな人 間性や考える力を育む機会とする。 ①募集期間 7月～10月（応募〆切10月上旬） ②対象 ・小学生 読書感想画（1～3年生） 読書感想文（4～6年生） ・中学生 読書感想文（1～3年生） ・高校生 読書感想文（1～3年生） ③審査委員会議 11月下旬 ④読書感想画展示会 12月～1月 ⑤入選作品発表 12月上旬 ⑥入賞作品集発行 2月下旬	報償費 286千円 印刷製本費 文集 72千円
活動	子ども図書館講座	10月	各館	小学生を対象に調理実習や工作活動を行いながら読書に親 しむ機会とする。 協力 ・保健福祉課栄養士 ・リーディング倶楽部たんぼぼ	消耗品 教材 20,000円

平成30年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容	予算額
図 書	読み聞かせ	年間	両館	<p>対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0歳児：ブックスタート事業 ・0歳児～小学生：図書館、児童センター、学校等 <p>協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせボランティア「りんごっこ」（4名） ・こぐま会（3名） ・リーディング倶楽部たんぼぼ（11名） ・湧高ボランティア同好会（4名） <p>場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗小（こぐま会） ・湧小（リーディング倶楽部たんぼぼ） ・子育て支援センター ・児童センター ・オープンブックカフェ <p>読み聞かせボランティアと連携し、定期的な読み聞かせ活動を実施する。また、湧高ボランティア同好会生徒への読み聞かせ指導を行う。</p>	—
	映画上映会	通年(毎月1回)	湧別図書館	・湧別図書館の多目的室を活かし定期的に映画会を行う。	消耗品 200千円(DVD)
館	古本市	9月	湧別図書館	古本、古雑誌のリサイクル活動。 協力：湧高ボランティア同好会	—
	特別展示	9月～10月	両館	町民大学講師著作展示	—
		年間	両館	テーマ：年中行事	—
		4/23～6/24	中湧別図書館	子ども読書週間展示	
		4/23～5/10	湧別図書館	子ども読書週間展示	
		未定	中湧別図書館	原画展示（遠紋地区図書館共同事業）	著作物使用料 30千円
年間	両館	協力展示（展示スペースの貸出）	—		
動	移動図書館車の運行	通年	両館	<p>移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。図書館職員が選本した文庫を配本する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等 	
	連携・ネットワーク	通年	両館	<p>町内各施設や関連部署、近隣市町図書館との広域連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紋別遠軽ブロック研修 ・学校図書館支援 ・図書館協議会委員視察研修 ・就学時健診「読書オリエンテーション」 	
文 化 財 保 護 活 動	文化財の保護① 埋蔵文化財	年 間	町内各所	<p>○開発行為に伴う埋蔵文化財の保護活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発事業者との事前協議と各種調査 ・埋蔵文化財包蔵地地図の整備（GIS等） <p>○埋蔵文化財包蔵地の状況把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状確認作業（遺跡バトロールの実施） <p>◎シブツナイ竪穴住居跡の発掘調査</p> <p>遺跡の範囲確認と竪穴住居群北側平坦地の内容確認 ＊時期、期間、調査規模は検討中</p> <p>○道教委による重要遺跡確認調査の支援（町内での実施は未確定）</p>	
	文化財の保護② 自然関連	年 間	町内各所	<p>○北海道指定文化財アッケシ草群の経過</p> <p>○天然記念物の現状変更手続（死亡・はく製）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オジロワシ ・タンチョウ <p>○記念木業務における関連部署との調整</p>	

平成30年度社会教育事業計画（案）

領域	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容	予算額
博 物 館 活 動	博物館資料① 収集	年 間	郷土館・ ふるさと 館JRY	○資料寄贈への対応 （おおむね昭和20年代以前の資料を対象） ○大型資料受入停止	
	博物館資料② 整理・保管	年 間	郷土館・ ふるさと 館JRY ・収蔵庫	○考古資料 ◎重要資料の確認作業と台帳の作成 （湧別市川遺跡資料を中心に） ・遺物収集家三宅資料の整理 ○開拓関連資料 ・文書資料の整理デジタル化 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 ・分類整理（同種資料整理） ・資料外保管物の処分 ・郷土資料収蔵館収蔵量増加 ・計呂地収蔵資料の整理 ○収蔵資料の特別利用許可	
	展 示	年 間	郷土館	○収蔵資料の展示 ・シブノツナイ竪穴住居群の29年度調査成果展（仮） ・展示資料の防犯対策検討 ○郷土館ボランティアガイド ・展示解説（5月～9月） ・解説活動のためのガイド研修会	
			ふるさと 館JRY	○常設展示更新 ・薄荷展示等 ○メイン展示室兵屋周辺整備	
	調 査 研 究	年 間	—	【博物館資料の付加価値を高め、効果的な情報公開を行うための学術的な研究及び資料調査】 ○開拓の歴史 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活 ○先史文化 ・シブノツナイ竪穴住居群の30年度発掘調査報告書作成 【文化財の保存に関する専門的及び技術的な調査研究】 ○開拓の歴史 ◎屯田資料 ・文書資料等の分類整理 ・文書資料の活用（図書館と連携） ・明治40年湧別村史 ○先史文化 ・シブノツナイ竪穴住居群保護のための集落研究 ・遺跡を活用した博物館教育論の研究	
博 物 館 教 育 研 修 ・ 学 校 授 業	年 間	郷土館・ ふるさと 館JRY	【博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習化する。町内各学校授業や各種研修会で歴史学習の機会提供を実施する。】 ○開拓の歴史 ・労働体験（薪作り） ・炊飯体験（薪ストーブ・羽釜） ・開拓期の衣体験 ・屯田生活体験館の活用（住） ○先史文化 ・遺跡を理解するモノづくり学習（土器・勾玉） ・遺跡フィールドワーク ・発掘調査プチ報告会（仮） *調査成果に応じて実施を判断する ○広報記事作成発行（博物館だより） ○博物館だよりの発行（湧く湧く内、HP） ○郷土史に関する情報提供及び質問対応（レファレンス）		

平成30年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容 等	備 考
青少年指導センター 事業	子ども会フットベースボール大会	7/1 (日)	湧別小グラウンド	スポーツを通してルールを理解し仲良く遊ぶ態度、フェアプレー精神を培うとともに、子ども会の活性化を図る。	
	子ども会交通安全駅伝競走大会	8/26 (日)	開盛小→ 中湧別小	小中学生が、一つのチームとなり走ることで、子ども会内の絆を深めるとともに、地域の交通安全啓発を行う。	
	子ども会ミニバレーボール大会	9/30 (日)	中湧別総合体育館 湧別総合体育館	スポーツを通してルールを理解し仲良く遊ぶ態度、フェアプレー精神を育て、子どもの健全育成を図る。	
	遠軽ブロック子ども会スポーツ交流会	未 定	佐呂間町	スポーツルールを正しく守り、仲良く遊ぶ態度やスポーツを愛好しようとする気持ちを育てるとともに、地域子ども会の活性化と子ども会会員同士の交流を図る。	
	子ども会リーダー研修会	7月 3月	五鹿山公園 紋別市総合研修センター（仮称）	社会教育事業 少年教育参照	
中高生リーダーの養成	年 間	ふるさと館JRYほか	中学生リーダークラブ「E=QVL（イクアル）」及び高校生リーダークラブ「Rainbow prop（レインボープロップ）」等の活動を支援し、子ども会リーダー研修会の企画会議から準備、当日の運営を任せるなど活躍の場を与え、育成に努める。		
青少年問題協議会	青少年問題協議会の開催	2月	文化センターさざ波	青少年の指導育成、保護、矯正に関する総合的な施策の樹立と実施に必要な関係機関の協議および連絡調整を図る。	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに青少年の健全育成を図る。①あいさつ運動②指導、補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	
文化連盟	上湧別地区総合文化祭	芸能の部 10月中旬 展示の部 10月中旬	文化センターTOM	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。	
		芸能の部 11月第1週 展示の部 11月第1週	文化センターさざ波		
良いもの見よう聞こう会	芸術鑑賞会	通 年	文化センターTOMほか	未 定	

平成30年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	備考
ビッグ・ウェーブ	芸術鑑賞会	通年	文化センターさざ波	未定	
実行委員会	芸術鑑賞会	5/26(土) ・27(日)	ふるさと館JRY	八神純子2days LIVE at JRY ～音楽と歴史のタベ～ 2ステージ	JRYメセナクラブ主催
	北柔会関連道場柔道合宿	10月	湧別武道館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室や指導者向けのセミナーを開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 講師：上野法美氏、上野和香子氏 合宿予定人員：80名（指導者含む）	
	厚別アトムズ合宿（少年野球）	7～8月	湧別球場	練習試合をメインとした合宿で、町内野球少年団との交流により、スポーツに対する意欲の向上を図る。 合宿予定人員：40名（指導者含む）	
	駒大苫小牧高校野球部合宿	8月	湧別野球場ほか	名門野球部を誘致し、近隣市町村を含めた高校との練習試合を町内で開催することにより、町民のスポーツに対する興味・関心を引き、スポーツによる町の活性化を図る。 合宿予定人員：90名	
	北海学園大学陸上部合宿	6月	上湧別百年広場ほか	陸上（中・長距離）部の合宿に併せ、町民に対する教室を開催することで、交流人口の拡大や町内の部活動生を始めとするランニング愛好家の質の向上を図る。 合宿予定人員：15名	
	明治大学合気道部合宿	未定	湧別武道館	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：50名	
	バレーボール教室	未定	中湧別総体ほか	少年団、中・高校生、一般女子を対象としたバレーボール教室を開催し、本町におけるバレーボールの普及及び技術の維持・向上を図る。 講師：小田急バレーボールクリニック 事務局長 岩本 洋氏	
	湧別原野林ツクロスカントリースキー大会	未定	遠軽町→湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース100km	

平成30年度社会教育施設整備計画（主要なもの）

（単位：千円）

施設名	改修・整備等内容	事業費	備考
芭露畜産研修センター	重油地下タンク漏えい防止工事	2,700	工事
農村環境改善センター	駐車場側溝グレーチング布替え	584	修繕
	暖房機取替	254	備品
文化センターさざ波	楽屋エアコン修繕	756	
	建物塗装工事	14,300	
	調光設備取替工事	44,600	
文化センターTOM	電動式移動観覧席修繕	3,376	
	非常用設備修繕	6,342	
	ロビー暖房機修繕	591	
	除雪機修繕	350	
湧別総合体育館	スポーツインストラクター配置 コンサドーレより1名配置 期間：4月～3月まで月2回	1,573	スポーツインストラクター人件費増額
	トレーニング機器借上（5年リース） トレッドミル、アップライトバイク インパクトチェストプレス インパクトラットプルダウン インスティンクトペクトラルフライ/リアデルト インスティンクトレックプレス/カーフ インスティンクトレックエクステンション/カーフ 各1台（合計7台）	1,298	12ヶ月分
	卓球台購入	243	備品
中湧別野球場	ベンチ修繕	231	
湧別屋内ゲートボール場	人工芝張替工事	15,050	
	ストーブ購入（2台）	1,650	備品
五鹿山パークゴルフ場	区画線工事	250	
	ロッジ手洗い場設置工事	648	
	肥料散布機	100	備品
五鹿山スキー場	雪入れ業務機械借上	1,941	
	発電機借上	411	
	リフト常用制動機整備工事	2,060	
	ロッジ床面改修工事	1,059	
	キューピクル高圧ケーブル開閉器取替工事	1,360	
湧別図書館	非常灯バッテリー交換一式	486	
ふるさと館JRY 郷土館	JRY屋根修繕	14,540	
	収蔵庫屋根修繕（上小横）	3,730	
	合計	120,483	

平成30年度各種研修会等の予定について

研修会等	月日	会場	内容	期待人数
遠紋地区社会教育委員研修会	9月下旬	興部町	遠紋地区の委員対象の研修会	6
管内社会教育振興セミナー	11/11日	遠軽町 白滝	管内の委員対象の研修会	6
北海道社会教育研究大会	10/12-13 金-土	留寿都村	全道の委員対象の研修会	3
地域生涯学習活動実践交流セミナー	2月14-15 木-金	札幌市	全道の職員中心の研修会 講演、優良事例発表、分科会	2
北海道市町村社会教育委員長等研修会	未定	札幌市	各市町村委員長等対象の研修会	2 委員長 副委員長

会 議	月日	会場	内容	出席
社会教育委員会議（定例会）	4月、10月 12月、3月	町内	事業計画策定、事業評価など	全員
管内社会教育委員連絡協議会	5月中旬	北見市	総会	委員長

その他自主研修会等（無報酬）	月日	会場	内容	出席
「社会を明るくする運動」ミニ集会	7月	町内	民生委員・保護司会主催 （報酬等支給の対象外）	希望者
成人式	1/13日	さざ波	式典に来賓として出席	希望者

議案第2号 第2次社会教育中期計画の策定について

1. 第2次湧別町社会教育中期計画（案）について

＜経過＞ 図書館協議会委員およびスポーツ推進委員による審議を含む、第1～第5専門部会すべての審議を終え、別紙計画（案）のとおり集約しました。

2. パブリックコメントの実施について

「湧別町パブリックコメント手続実施要綱」に基づき公表し、意見を求めることとする。

実施期日 平成30年1月10日～2月9日

実施概要 P2のとおり

公表方法 ①かわらばんによる周知

②町ホームページによる周知 等

意見集約後の対応

提出された意見に対し、実施機関（教育委員会）の考え方および計画書に修正がある場合は修正案を公表するが、必要に応じて前段に社会教育委員会議を開催し、意見を求めるものとする。

3. 答申書（案）について

答申書（案）（P3）をつぎのとおり教育委員会教育長あて提出する。

提出日 平成29年12月 日

4. 計画書の発行について

計画書は冊子にし、公職者や関係機関等に送付する。

発行日 平成30年3月

発行数 200部

人、自然、
ふるさとから学び、
地域と共に生きる

第2次

湧別町

社会教育中期計画（案）

2018～2022

湧別町教育委員会

はじめに(仮)

新町が誕生してからはじめてとなる町の教育目標が平成24年に制定されました。この目標を踏まえて、翌年には第1次湧別町社会教育中期計画が策定され、あわせて社会教育目標が制定されたことにより、町社会教育行政の進むべき道が示されました。

以来、湧別町社会教育は、この方向性に基づいた事業を展開、効果を検証し反省評価を繰り返しながら次の施策へ生かす取り組みを進め、5年が経過しました。

この間、私たちを取り巻く環境も大きく変化しています。また、まちづくりの根幹をなす第2期湧別町総合計画が策定されるなど、新たな指針も生まれています。

こうした変化の中にあって、平成30年度を初年度とする5カ年の第2次湧別町社会教育中期計画を策定することとなりました。

計画策定にあたっては、社会教育委員の会に諮問させていただき、このたび答申をいただきました。審議にあたっては、領域ごとに専門部会を設置し、また、図書館協議会およびスポーツ推進委員にも協議をいただくことで、より専門的かつ町民の皆様に近い立場からご審議をいただきました。

本計画に基づいて、これから具体的な事業の取り組みが始まります。実行にあたって、町民の皆様の積極的な参加と、関係機関、団体等のご協力をお願い申し上げます。

終わりに本計画策定にご尽力を賜りました社会教育委員をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成30年 3月

湧別町教育委員会

教育長 刈 田 智 之

第2次湧別町社会教育中期計画 目次

第1章	社会教育中期計画の基本構想	
第1節	計画策定の意義	・・・・・・・・・・・・・・・・
第2節	計画策定の基本方針	・・・・・・・・・・・・・・・・
第3節	計画策定の方法	・・・・・・・・・・・・・・・・
第4節	計画の名称及び期間	・・・・・・・・・・・・・・・・
第2章	社会教育中期計画の基本	
第1節	湧別町総合計画	・・・・・・・・・・・・・・・・
第2節	教育目標	・・・・・・・・・・・・・・・・
第3節	学校教育目標	・・・・・・・・・・・・・・・・
第4節	社会教育目標	・・・・・・・・・・・・・・・・
第5節	社会教育推進の構造	・・・・・・・・・・・・・・・・
第3章	社会教育の現状と課題・推進目標	
第1節	家庭教育の現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第2節	少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第3節	青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第4節	成人教育の現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第5節	高齢者教育の現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第6節	芸術文化活動と文化施設整備の 現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第7節	図書館活動の現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第8節	博物館活動・文化財保護活動の 現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第9節	スポーツ活動とスポーツ施設整備の 現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
第10節	生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備 現状と課題・推進目標・推進項目	・・・・・・・・
付属資料		
	第2次湧別町社会教育中期計画の策定について（諮問）	・・・・・・・・
	第2次湧別町社会教育中期計画の策定について（答申）	・・・・・・・・
	第2次湧別町社会教育中期計画の審議経過	・・・・・・・・
	湧別町の概要	・・・・・・・・
	社会教育関係団体	・・・・・・・・
	社会教育関連施設	・・・・・・・・
	社会教育関係委員	・・・・・・・・
	教育委員会社会教育課職員	・・・・・・・・

第1章 社会教育中期計画の基本構想

第1節 計画策定の意義

本町の社会教育は、「人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる」をテーマとした第1次社会教育中期計画（平成25年度から平成29年度）に基づき、人と人とのつながりを大切にしまちづくりを念頭において社会教育活動を推進してきました。

この間、社会環境の変化はさらに加速し経済構造や情報のグローバル化を背景に、国内全体としてはさまざまなサービスの向上や多様化が見られ、生涯学習活動の分野においても、その実践機会の幅はさらに広がりつつあります。しかし、こうした多様で広域的なサービスを個人でも手軽に受けられるといった学習環境の整備が進む一方で、地方では核家族化や少子高齢化などを背景にして、家庭も含めた地域社会における人間関係の希薄化の問題を抱えると同時に、一人ひとりが持つふるさとへの愛着を生かしきれていない現状が見受けられます。

このような社会情勢の中で、町民のみなさんがこの地域で相互に学びあうために、コミュニケーション能力を含む豊かな人間性といった総合的な力を育み、他者との関係を築くことができ、その力を地域で発揮できるような環境を整備することが、本町の公教育としての社会教育に求められております。

これらの状況を踏まえ、社会教育行政の目的・目標・その達成のための方策・事業等を体系的に整理・調整することによって効果的かつ効率的な行政運営を図るための指針となる第2次の社会教育中期計画を策定するものです。

第2節 計画策定の基本方針

平成29年3月に策定された「第2期湧別町総合計画」と、平成24年2月に策定された「湧別町教育目標」の理念を基本とし、さらに第1次計画の反省・評価から各領域の課題を踏まえ、今後5年間における社会教育推進の計画を策定します。

また、単年度における反省・評価の検証を行い、中間地点での見直しなどの検討を加え、本計画で示す目標に向け社会教育の推進を図っていくものです。

この計画は、社会教育の施策を展開するうえで基本となるものであり、町民の主体的な学習活動が図られ、地域づくりへの参画が促進されるよう地域の教育力の充実を目指し、具体的な施策の推進を図ります。

第3節 計画策定の方法

計画策定の第1段階として現状と課題の把握のため、第1次計画のふりかえり（反省・評価・課題の洗い出し）を重視しました。第2段階は目標と施策について協議を行いました。この中で、「生涯学習の基盤整備、社会教育施設、少年教育、青年教育」「家庭教育、成人教育、高齢者教育」「芸術・文化活動、博物館活動・文化財保護活動、文化施設」「図書館活動」「スポーツ

振興、スポーツ施設」の5つの専門部会を設け、より深い討議を行いました。

計画案の策定にあたっては社会教育委員が行いますが、図書館部会およびスポーツ部会にあっては、一定の分野においてより地域住民に身近でかつ専門性の高い図書館協議会委員とスポーツ推進委員による部会運営を依頼し、社会教育委員はオブザーバーとして参加することで、その意見を最大限反映できるよう努めました。

第4節 計画の名称及び期間

この計画の名称は「湧別町第2次社会教育中期計画」と称し、期間は平成30年度から34年度までの5年間とします。

<参考>これまで策定された社会教育中期計画

①合併前

湧別町第1次社会教育中期計画	(昭和62年度～平成 3年度)
湧別町第2次社会教育中期計画	(平成 4年度～平成 8年度)
湧別町第3次社会教育中期計画	(平成 9年度～平成13年度)
湧別町第4次社会教育中期計画	(平成14年度～平成19年度)
湧別町第5次社会教育中期計画	(平成20年度～平成24年度)
第1次上湧別町社会教育中期計画	(昭和61年度～平成 2年度)
第2次上湧別町社会教育中期計画	(平成 3年度～平成 7年度)
第3次上湧別町社会教育中期計画	(平成 8年度～平成12年度)
第4次上湧別町社会教育中期計画	(平成13年度～平成17年度)

②合併後

湧別町第1次社会教育中期計画	(平成25年度～平成29年度)
----------------	-----------------

第2章 社会教育中期計画の基本

第1節 第2期湧別町総合計画（平成29年3月策定）

人と自然が輝くオホーツクのまち（将来像）
つどい、つながり、磨き上げるまちづくり（基本理念）
心の豊かさと生きる力を育むまちづくり（教育文化分野）

第2節 教育目標（平成24年 2月策定）

社会に参画できる実践的な能力をはぐくむ
自他を尊重し、ともに支える豊かな心をはぐくむ
自らを律し、自ら行動する積極的な心をはぐくむ
健やかな体と生命を尊ぶ心をはぐくむ
自然・環境を守り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する態度をはぐくむ

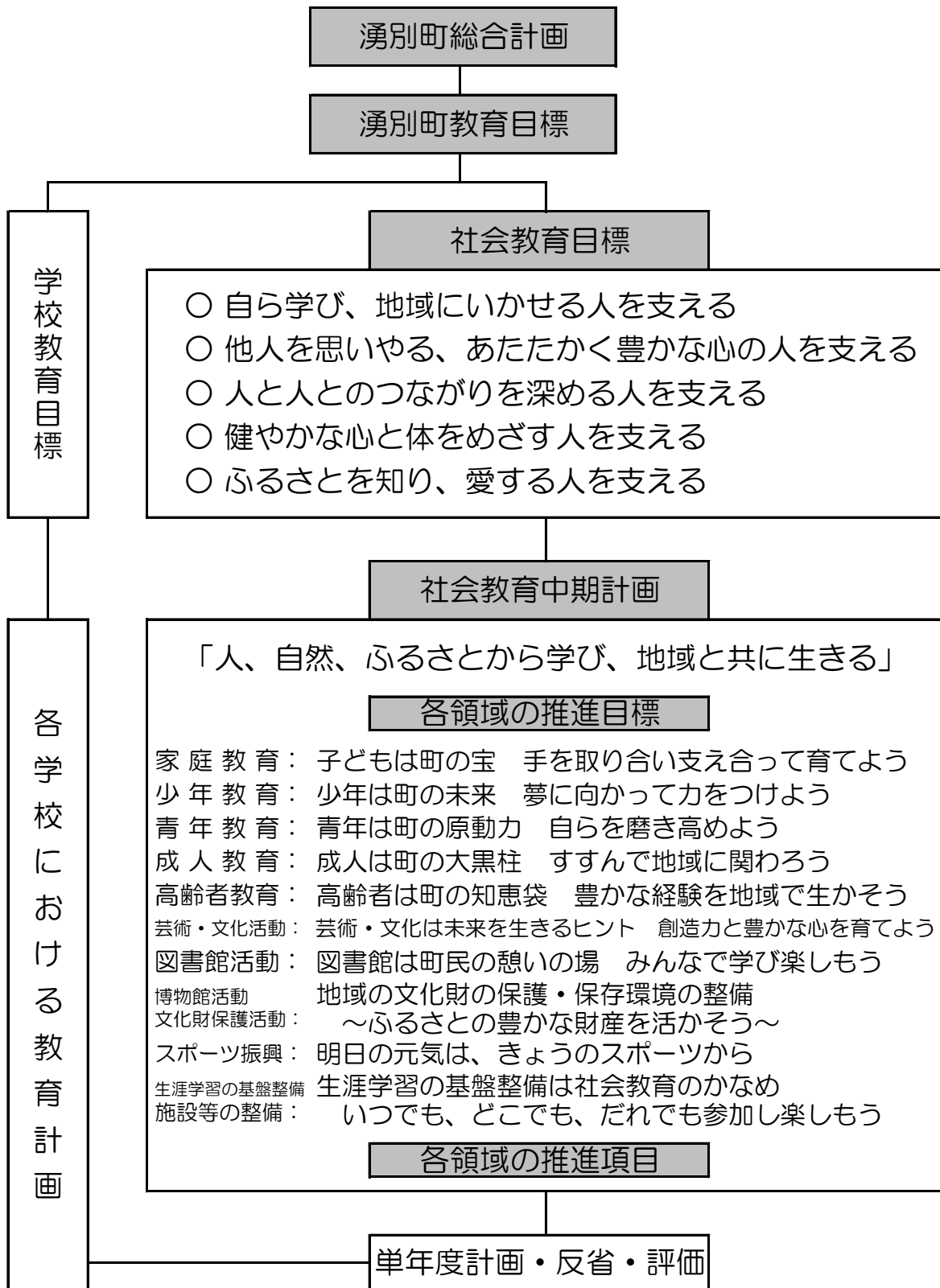
第3節 学校教育目標（平成24年 2月策定）

自ら学んで、知性を高め、正しく判断する子どもを育てる
思いやりの心を持って、お互いに協力する子どもを育てる
忍耐力と自律の心を持ち、進んで行動する子どもを育てる
健やかな心身を持ち、自他の生命を尊重する子どもを育てる
ふるさとに学び、ふるさとを愛する子どもを育てる

第4節 社会教育目標（平成25年 3月策定）

自ら学び、地域にいかせる人を支える
他人を思いやる、あたたかく豊かな心の人を支える
人と人とのつながりを深める人を支える
健やかな心と体をめざす人を支える
ふるさとを知り、愛する人を支える

第5節 社会教育推進の構造



第3章 社会教育の現状と課題・推進目標

第1節 家庭教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【家庭教育の現状と課題】

家庭教育はすべての教育の原点であり、出発点でもあります。

子どもにとって「家庭」は、子ども自身が家族から愛され、かけがえのない存在であることを実感し、心の安定と安心を得て「生きる力」を養う場所であるとともに、家族の歴史や生き方を学び、社会生活に必要な望ましい生活習慣やマナーなどを身につけるところです。

家庭を取り巻く環境は、多様で便利な生活が実現する一方で核家族化により家庭教育は孤立の傾向にあります。

生活スタイルや価値観の多様化は、地縁的なつながりを希薄にし、近所での気軽な話し合いや助け合いを減少させています。加えて核家族化は、親から子育ての援助や知恵が得られにくい状況をつくり出しています。とりわけ、子どもを通して他の親と交流する機会の少ない0～3歳児を持つ核家族の親にとっては、子育ての不安や悩みを相談しにくい環境に置かれているといえます。子どもはまちの宝であり地域全体で守り育てていかなければなりません。

現在、子どもの誕生を祝う民間有志団体が発足し、活動を続けています。一方、幼保小中高生の保護者を対象に家庭教育の大切さを学習する場として開催している「家庭教育研修会」は異年齢の親が一堂に会し、交流を深め、経験から学ぶ良い機会ですが、参加者が少ない状態が続いています。さらに、各校の教頭先生による「家庭教育推進員」としての活動および学校単位での「家庭教育学級」の活動、PTAにおける取り組みも親同士のよい交流機会となっておりますが、参加者数が少なく運営に苦慮するほか、学級の新規設置も進まない状況にあります。周囲との関わりに消極的な家庭も見受けられるため、開催方法の工夫により参加を促すことも必要です。そのほか、個別の事情に寄り添う教育アドバイザーによる常設の家庭教育相談も実施しています。乳幼児期の家庭教育支援については、ブックスタートをはじめとする図書館事業や民間団体によるブックカフェの実施、子育て支援課による育児学級事業などがありますが、情報の発信・共有を含め連携が必要です。

子どもが置かれている環境は危うい状況です。社会のモラルが低下し、非人道的な犯罪が頻発し、有害な動画配信やSNS等を通して、大量の情報が刺激的に子どもたちの中に入り込んでいます。発達段階を無視して整理されないまま子どもの中に入ってくる大量の情報は、健やかな成長の阻害要因になり、いじめ、非行、犯罪への誘発要因ともなっています。家族が一緒に集い暮らし、団らんの語らいの中でゆったり行われる家庭教育の役割、重要度は、今日より大きくなっているといえます。

＜今後の課題＞

- 家庭と地域の教育力向上を図るために、地域社会における家庭教育支援の大切さを広く周知する必要があります。
- 0～3歳児を持つ親への支援や団体間の連携を強化する必要があります。
- 「家庭教育学級」が、すべての学校で開設できるよう働きかけるとともに、「家庭教育研修会」の意義・役割を広める必要があります。
- 開催場所の設定にあたって保護者が集まるような場所に出向くことも、検討が必要です。
- 家庭教育支援に関わる機関との情報の共有・連携を強化する必要があります。
- 孤立しがちな子育て世代を支援するため、ボランティアを育成する必要があります。

(推進目標と推進項目)

家庭教育 推進目標	子どもは町の宝 手を取り合い、支え合って育てよう
--------------	--------------------------

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●家庭教育への理解を深める研修事業を充実する。 ●家庭教育を担う保護者が必要とする情報を発信する（情報誌やインターネットなど各種メディアの活用）。 ●<u>家庭教育事業の実施場所を対象者の集う場所にあわせて設定する方法を検討する。（未決事項）</u>
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ●「家庭教育学級」など、家庭教育への意識を高める学習活動を支援する。 ●子育てサークル等の育成と支援を充実する。
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●「家庭教育学級」の全町の小中学校開設を促進する。 ●子育ての悩みや喜びをわかちあえる気軽に集う場（サロン）を創設する。
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの育ちを支えるネットワークを構築する。 ●家庭教育を担う保護者の発言が反映されるメディア（＝情報媒体）を構築する。 ●子育て支援センターや図書館など、各種関係機関・団体との協力体制をつくり、連携を図る。

第2節 少年教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【少年教育の現状と課題】

現在の少年を取り巻く社会、家庭環境は、複雑で多岐にわたっております。

多様化する要因として高度情報化社会があげられます。室内でのゲームやスマートフォン等の長時間利用が進み、友達同士で外に遊びに行く機会は減少しており、顔を合わせたコミュニケーションが希薄になっています。外で遊ぶこと等の体験不足により、ルールやマニュアルどおりにすることは容易に出来ますが、臨機応変の応用力が乏しく、良い悪いの境を判断する能力が非力ゆえに問題となるケースが見受けられます。

また、少年団活動や部活動に加入している子どもは基礎体力や運動能力に比較的優れていますが、日頃運動をしていない子どもは、十分な体力が備わっていません。ボールを投げること、走ること等の基本的な運動能力が低く、体力の2極化が進んでいます。

このように少年教育の課題として、自然体験や異世代間交流、仲間づくり等の様々な体験活動の提供を求められています。しかし、近年子どもたちは、少年団、部活動、塾等で日々忙しいなど、体験や交流・仲間づくり事業を実施しても参加者数が少なく事業が成立しない状況も見られることから、家庭や学校の理解、連携が欠かせない問題であると考えられます。

現在の取り組みとして、青少年指導センターでは中学生と高校生のリーダークラブを組織し、小学校高学年を対象に子ども会リーダーの養成を目的としたリーダー研修会を夏と冬に行っています。また、子ども会対抗の各種スポーツ大会においては、既存の単位子ども会のほかに湧別地区子ども会の連合組織「湧別地区サポート協議会」を加えてチーム編成するなど、湧別地区からも参加しやすい工夫をしながら実施しています。

しかし、これらは合併前からの継続事業であり、地区ごとの参加者数の偏りが見受けられることから、リーダー・指導者の養成や小学生から高校生・青年までのつながりを視野に入れた事業の再評価や見直しを積極的に進めなければなりません。

<今後の課題>

- 将来において豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力を重視し、達成感の中から学ぶ様々な体験活動の提供を行う必要があります。
- 次世代を担うリーダー・指導者活動の支援・育成が必要です。
- 小学生から高校生・青年まで連携した事業の展開が必要です。
- 現在の事業に新たな取り組みの導入及び事業の見直しの検討が必要です。

(推進目標と推進項目)

少年教育 推進目標	少年は町の未来 夢に向かって力をつけよう
--------------	----------------------

項 目	課題解決のための方策	
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の特性を生かした数多くの体験学習活動の機会を提供し、豊かな人間性の養成を図る。 ●年に一度は町内の子ども全員が集まる機会を提供し、充実を図る。
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども会や青少年指導センターを支援する。 ●異世代や異年齢との交流機会の拡充により、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、地域教育力の向上を図る。
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生や中学生のリーダー養成と活用を図る。 ●地域の成人指導者の活用を図る。 ●小学生～中学生～高校生～青年が連携できるよう、青年層からボランティアを積極的に受け入れ、次世代につながる指導者の養成を図る。
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●より学習効果が得られるよう学校と社会教育が連携・融合した事業を推進する。 ●小中学生の学力・体力向上に向けた生活習慣改善の取り組みに協力する。 ●児童センターをはじめ関係機関との連携を図る。 ●学校の求めに応じ、コミュニティスクールに社会教育が積極的に参加協力を行う。

第3節 青年教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【青年教育の現状と課題】

成人式の「20歳の主張」において活躍を誓う姿が象徴するように、青年は地域のリーダーとして大切な役割を担っています。

近年、ボランティア等の社会貢献活動への参加意識は高まっていますが、依然として参加を敬遠する青年がいるのも事実です。実際に参加してみないとその面白さや充実感を味わうことや、経験を得ることが出来ません。社会教育の分野に限らず若い力が必要な場面はたくさんあり、個人で参加できる町民大学や成人文化教室など様々な学習を得る機会があるので、青年の事業参加についてもアプローチするとともに、参加を促すために青年の意見を取り入れ、若い力を活用していくことが町の発展に繋がると考えられます。

また、関係団体の連携については農協や漁協、商工会には青年部があり、それぞれ活動している現状であるため、職業間を越えた仲間作りが出来れば、新しい発想や事業に発展する可能性があります。

現在の取り組みについては、青年団体協議会に対し、活動場所として青年会館の提供や、青年団員拡大や主催事業の広報活動等、地元の青年が活躍できる地域に根ざした活動の支援を行っております。

これらの青年組織と連携を図りながら、同じ地域に住む様々な職業・立場を生きる青年が交流できる機会の提供が求められています。

<今後の課題>

- 青年同士の仲間づくりや集う場の提供が必要です。
- 活動機会が少ないことから、青年が活躍する機会の提供が必要です。
- 青年が気軽に意見を言える機会を設け、活動に積極的に関わる人材の発掘・育成が必要です。

(推進目標と推進項目)

青年教育 推進目標	青年は町の原動力 自らを磨き高めよう
--------------	--------------------

項 目		課題解決のための方策
人、 自然、 ふるさとから学び、 地域と共に生きる	学習 機会 の 提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種研修会等の情報を提供し参加を奨励する。 ● 成人式を開催し、新成人の社会人としての意識の高揚を図る。 ● 高校生の社会参加活動を奨励・支援する。
	活動 等 の 支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 青年団体協議会が行う自主活動を応援し、広く周知に努める。
	学習 環境 づ く り	<ul style="list-style-type: none"> ● 各青年組織のリーダーが集い、学習する機会と組織化を支援（まちづくり青年会議の創設）。 ● 若い女性の社会参加を図る。 ● 団体リーダーの養成と活用を図る。 ● 地域活動への参加に向けて意見交換の機会をつくる。
	連携 ・ ネット ワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 各青年組織の交流を奨励し、連携・ネットワーク化を促進する。

第4節 成人教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【成人教育の現状と課題】

成人期は、職場や家庭、地域において、中心的な役割を担い、体力、知力的に最も社会に貢献できる時期であり、それぞれの立場で、地域や団体活動の中心的役割を果たすことが期待されている時期です。

しかし成人期は、その立場から毎日が忙しく、社会参加や自主的な活動は、参加の意欲がありながら難しい状況にあります。

一方で成人の75歳以上を高齢期として区分し、65歳から74歳までを社会に参加しながら健康な高齢期に備える時期と定義する動きもあります。65歳から74歳までの町の人口は1,445人で総人口の15.8%（平成29年6月末）を占めていますので、この世代を成人期に区分することで人材の幅は大きく広がります。しかしこの世代の現状としては、地域の中心的担い手として活躍する方がいる一方で、地域活動に消極的な方も少なくありません。

現在、町民を講師に迎えて、町の歴史、産業、自然等を町民が学ぶ機会を提供する「ふるさと講座」が町民有志によって運営され、さまざまなつながりが生まれ定着しつつあります。また、実行委員会が運営する「町民大学」では、高度で専門的な学習要求に応えるため、第一線で活躍している講師を招いて実施し、町民の貴重な学習機会になっていますが、参加数は講師の知名度に大きく左右される状況が続いています。また、ボランティア団体、PTA等の社会教育関係団体や有志によるグループ・サークルが自主的に講座や鑑賞会などの社会教育活動を行っており、これらの活動に対して教育委員会が必要な支援を行っています。

今後は、働き盛りの成人と退職後の成人がそれぞれの役割を補い合い、世代間、産業間等の連携をとりながら、世代を束ねるリーダーとなるよう積極的に地域と関わることを求められています。

<今後の課題>

- 「ふるさと講座」は、湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会および指導者養成の場として支援する必要があります。
- 「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開を奨励する必要があります。
- 時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要があります。
- 世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画やまちづくり等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要です。
- 学習を支援するコーディネーターを育成する必要があります。

(推進目標と推進項目)

<p>成人教育 推進目標</p>	<p>成人は町の大黒柱 すすんで地域に関わろう</p>
----------------------	-----------------------------

項 目		課題解決のための方策
<p>人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる</p>	<p>学習機会の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広い学習ニーズに応える学習機会の提供と学習意欲を喚起する。 ●ふるさとを学ぶ機会の充実を図る。 ●既存事業（町民大学等）の魅力を広く伝える。 ●地域に関する学習機会を提供する。
	<p>活動等の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●社会教育各種団体等へ支援を図る。 ●おたがいの仕事や暮らしぶりを知り、地域を知ることにつながる学習活動を支援する。 ●自主的に企画し実践するサークルなどの活動支援を充実する。 ●事業を反省評価し、次へ生かす取り組みを支援する。
	<p>学習環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●行政と住民の協働事業を推進する。 ●参加者に開会日時や託児サービスなどを配慮した事業を行う。 ●気楽に参加し、すすんで活動できるよう情報の提供に努める。
	<p>連携・ネットワーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●各種団体間の交流を促進する。 ●関係機関との連携を図る。

第5節 高齢者教育の現状と課題・推進目標・推進項目

【高齢者教育の現状と課題】

年齢や家庭状況、健康状態等によっても差異がありますが、時間的に余裕のある高齢期は、長年培ってきた知恵や経験、技能を生かした社会参加を通して、生きがいのある充実した生活をおくることが期待されています。

湧別町の65歳以上の人口は、全体の37.0%、75歳以上では21.2%（いずれも平成29年6月末）を占めています。地域づくり、まちづくりにおける高齢者の果たすべき役割はより大きくなっており、地域の教育力を高めることにもつながっています。

現在の取り組みとして、湧別地区には生きがい大学、上湧別地区には寿学級が開講されていますが、80歳以上の高齢層が占める割合が増え、自主運営が難しくなってきたことから、基盤強化のため統合に向けた話し合いが進んでいます。2つの高齢者学級では、健康づくりや医療、福祉、終活などをテーマとした学習のほか、演芸やレクレーションで交流活動が行われています。

また、受身の学習ばかりではなく、学校児童生徒との交流会、子ども百人一首教室の指導など、高齢者が出向いて活躍する場も増えています。

しかし、積極的にグループに所属などして、活発に活動する高齢者がいる一方、地域、社会との交流を持たず、家に引きこもりがちな高齢者が少なくないのも現実です。今日の問題として、要介護（要支援を含む）認定者数が町内で600人を超えるなど、介護予防の必要性が高まっており、その対応も求められています。

高齢者が家族に尊敬され、地域で頼りにされ、感謝される喜びの中で生きがいを持てるようにすることが重要です。

<今後の課題>

- 「高齢者学級」では、主体的な取り組みを可能にする支援が必要です。
- 高齢者が持つ知識や経験、技能を地域や次世代に伝える機会を提供し、生きがいを持てるようにする必要があります。
- 家にこもりがちな高齢者に、地域の身近な情報を提供するとともに、より参加しやすい少人数でのグループ活動などの場を創出する必要があります。
- 60代で退職し、第2の人生をスタートした方たちが、地域の団体に加入する等、積極的参加を促すとともに活躍の場を提供する必要があります。

(推進目標と推進項目)

高齢者教育 推進目標	高齢者は町の知恵袋 豊かな経験を地域で生かそう
---------------	-------------------------

項 目	課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の興味関心を呼び起こす事業を創設する。 ● 知識や知恵をもった高齢者から学ぶ機会を創設する。 ● ふるさとを伝える機会を創設する。
	活動等の支援 <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者学級の参加者による自主活動の促進と充実を図る。 ● 次の世代に伝承する異世代間交流事業を充実する。
	学習環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ● <u>知識や知恵を持つ高齢者を把握し、活かすようコーディネートを充実する。</u> ● 長寿社会を生きるそれぞれの年齢に応じた学習ニーズを把握し、次世代に豊かな経験を伝える機会を創出する。 ● <u>少人数でも気楽に参加しやすい環境づくりに努める。</u>
	連携・ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者学級と他団体との連携を図る。 ● 高齢者の豊かな経験を活かすために関係機関との連携を図る。

第6節 芸術文化活動と文化施設整備の

現状と課題・推進目標・推進項目

【芸術・文化活動と文化施設整備の現状と課題】

芸術・文化は、人間が人間らしく生きるためのものであり、ともに心豊かに生きる社会を目指して、活気と個性あふれるまちづくりを構築するうえでも大きな役割を果たすものです。また、町民の文化活動に対する芸術性や専門性は年々高まりを見せており、文化連盟や関係機関と連携を図りながら、町民のニーズに応える施策を展開し、心の糧となる芸術・文化活動の充実が望まれます。

幼児や小・中学生を対象とした芸術鑑賞会については、一定の評価を得た作品を継続的に実施しました。これからの時代は、ロボットや人工知能には置き換えられない、人間だけにしかできない仕事につく可能性は大きくなります。そのためにも、創造的な能力を伸ばせるよう、青少年が芸術文化に触れる機会の充実が求められています。

また、一般向けの芸術鑑賞会開催に加え、町民が主体的に芸術鑑賞の企画運営に取り組める「芸術文化奨励事業」を実施し、幅広いニーズに応える体制を継続してきました。しかし、一般向けの主催事業、芸術文化奨励事業ともに、出演者の知名度に観客数が左右される傾向があり、全体として集客力は低迷しています。

また、演奏の技術指導やミュージカル等の体験事業といった育成事業には、その参加者に新たな技術と感動を与えることができました。鑑賞事業ばかりではなく育成事業においても充実を図り、鑑賞と創造が両輪となって、地域の文化を活性化していくための環境作りが求められています。

文化連盟については、両地区の文化協会ごとに総合文化祭等を行なっていますが、今後は相互の交流を図りながら文化連盟の自主的な組織活動・事業が充実することが望まれています。

町の合併により文化センターが2館となり、各々文化活動の拠点として芸術文化団体・サークル等が例会・練習の場として主に使用しています。両文化センターは、建設後20年以上が経過し、経年劣化した設備の更新を進めることはもちろん、ホールの特徴を活かした住み分けも考えていく必要があります。

<今後の課題>

- 鑑賞と創造が両輪となった芸術文化活動を推進し、町民が感動にふれる機会を提供することが必要です。
- 芸術文化の持つ創造性を活かし、青少年が芸術文化に触れる機会の充実が必要です。
- 鑑賞事業で多くの人に足を運んでもらう工夫・きっかけ作りが必要です。
- 町民のニーズに合ったカルチャー教室を実施し、芸術文化に携わる人の裾野を広げる必要があります。
- 文化連盟を始め、各種文化団体の活動支援が必要です。
- 文化センターの計画的な設備の更新が必要です。
- 文化センターさざ波、TOMそれぞれの特徴を生かした施設活用が必要です。

(推進目標と推進項目)

芸術・文化活動 推進目標	芸術・文化は未来を生きるヒント 創造力と豊かな心を 育てよう
-----------------	-----------------------------------

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民ニーズをふまえた上で、質の高い芸術文化作品の鑑賞機会の提供に努めます。 ● 青少年が芸術文化に触れる機会の拡充に努めます。 ● カルチャー教室、各種体験事業、ワークショップなどの実施により、芸術・文化に親しむ機会の提供に努めます。
	活動等の支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化連盟を始め、各種文化団体の活動を支援します。 ● 芸術文化奨励事業補助等制度の活用促進に努めます。 ● 学習の成果を活かす場として、町民ギャラリーや総合文化祭等の活用を努めます。
	学習環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 芸術・文化事業の情報提供に努めます。 ● さざ波・TOM両文化センターの特徴を活かした有効活用に努めます。 ● 文化センターの計画的な設備の更新に努めます。
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 道や他市町村、北海道文化財団等の関係機関との連携を図ります。 ● 文化連盟、芸術鑑賞団体、各種文化団体と連携し、芸術文化の振興に努めます。

第7節 図書館活動の現状と課題・推進目標・推進項目

【図書館活動の現状と課題】

現在、私たちの社会は生活を彩る様々な情報と、その情報を扱う様々なメディアにあふれています。また、インターネットやゲームの普及、娯楽の多様化が日々驚異的な速さで進展し、あらゆる世代の「読書離れ」が危惧される状況です。このような社会環境にだからこそ、幼少期から心を育てる環境整備が急務といえます。

国は読書の持つ計り知れない価値を認識し、子どもの読書活動に対し様々な支援を行ってきました。本町も平成30年度、「湧別町子どもの読書活動推進計画」を策定し、町をあげての読書活動の推進に取り組み始めたところです。

今、あらためて読書の重要性が見直され、読書活動を支える社会基盤として「図書館が果たす役割」は、ますます高まってきています。

図書館活動は貸出サービスを中心に、中湧別図書館、湧別図書館の2館、移動図書館車の巡回による広域サービスを実施、あらゆる場所で本を手に取り、自宅で読書できる環境整備に努めています。また、貸出サービスの根幹となる図書館資料収集・整理・保存についても、常に新鮮で適切な蔵書管理に努めており、約14万冊もの図書館資料は図書館システムで一括管理されています。

学校をはじめとする教育施設、保育所、児童センター等の保育・福祉施設、家庭教育の関係団体とも連携し読書活動の推進に努めています。

また、図書館では、図書館司書の専門性を活かした読書活動へのアドバイス、図書館事業の開催、関係団体との連携・支援に努めています。更に各種ボランティアとも連携を図り、町の読書活動の推進に努めていきます。

<今後の課題>

- 新鮮な図書館資料の収集、適切な蔵書構成の維持と管理が必要です。
- 中湧別図書館・湧別図書館の両館が、町の学習拠点として、また憩いの場として充実を図ることが必要です。
- 学校をはじめとする教育施設との連携が必要です。
- 保育所、児童センターをはじめとする保育・福祉施設との連携が必要です。
- 家庭教育の関係団体との連携が必要です。
- 湧別町子どもの読書活動推進計画の実現が必要です。
- 貸出ステーションの見直しが必要です。
- 図書館に来館の難しい利用者に対し、宅配サービス等の検討が必要です。
- 遠隔地に居住する児童生徒等に対し、送迎サービスの検討が必要です。

(推進目標と推進項目)

図書館活動 推進目標	図書館は町民の憩いの場 みんなで学び楽しもう
---------------	------------------------

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	図書館資料の収集、 整理保存	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民の読書傾向をふまえ、新鮮な図書購入に努めます。 ● 郷土資料の収集と分類整理を推進します。 ● 多様な資料を収集し、中湧別図書館と湧別図書館、並びに移動図書館における蔵書構成の維持管理に努めます。
	利用促進、 読書機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 読書の喜びを伝える魅力的な展示を行います。 ● 湧別、中湧別2館それぞれが持つ特徴を活かした展示やイベントを行います。 ● 気軽に集える読書環境を整備します。 ● 図書館システムの更新を行い、図書館資料の適切な管理と利用者の利便性を高めます。 ● 来館の難しい町民に向けての読書環境を整備します。 ● 移動手段の限られた子どもや高齢者の読書機会を提供する湧別、中湧別2館体制の充実を図ります。
	地域社会との 交流・団体活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な移動図書館車運行を実施し、町内全域に向けて読書活動を推進します。 ● 町内施設・団体との交流、読書活動を推進します。 ● 町内施設・団体を窓口にも、図書館資料を活用した読書活動を推進します。
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校をはじめとする教育施設との連携を図ります。 ● 保育所、児童センターをはじめとする保育・福祉施設との連携を図ります。 ● 家庭教育の関係団体との連携を図ります。 ● 「子どもの読書活動推進計画」により、子どもたちの読書環境を整備します。 ● 広く図書館情報を発信します。 ● 図書館ボランティアとの連携強化に努めます。 ● ネットワークを活用した図書館間の連携を図ります。

第8節 文化財保護活動・博物館活動の

現状と課題・推進目標・推進項目

【文化財保護活動・博物館活動の現状と課題】

文化財では、天然記念物として昭和32年佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落、埋蔵文化財では昭和42年シブノツナイ竪穴住居群がそれぞれ北海道の文化財に指定され、現在に至るまで大切に保護されてきました。埋蔵文化財は他に北海道を代表する湧別市川遺跡、川西オホーツク遺跡をはじめ所在が確認されている包蔵地は56か所もあります。

博物館活動は、郷土館において地域の特徴である考古資料を中心に湧別地区のあゆみを展示しています。郷土館ボランティアが教育普及活動に協力しています。上湧別地区には一世紀にわたって継承されてきた湧別屯田の資料等の開拓の記録があり、ふるさと館JRYでそれらは保存展示され、明治開拓期の「衣食住」の体験などの教育普及活動が行われてきました。

文化財保護活動・博物館活動の基本は文化財と資料の保存にあります。これらを将来へと確実に継承する保護計画を立案実行することが最大の課題と考えます。

埋蔵文化財はこれまでと同様に開発行為による破壊を防いでいかなければなりません。そして、保護だけではなく調査分析を行い、教育普及活動へつなげていくことも求められます。特にシブノツナイ竪穴住居群は道教委による再調査が3カ年行われ、今後も調査分析の継続が町に求められています。

博物館・収蔵庫にある資料はこれから情勢の変化とは関係なく安定的に保存されていく環境を構築しなければなりません。

保護に加えて、文化財、博物館資料を町民に広く知ってもらい、その存在意義を考えてもらう機会を提供していくことも重要な役割です。そのための方策を考えることも重要な課題です。

<今後の課題>

- 文化財保護活動
 - 埋蔵文化財保護のため所在地の明確化と土木工事等による破壊を防ぐ必要があります。
 - シブノツナイ竪穴住居群等の包蔵地の調査が必要です。
 - 発掘資料の整理・分析が必要です。
 - 天然記念物保護の適正な各種事務手続きに努めます。
- 博物館活動
 - 新しい収蔵庫の建設の必要があります。
 - 資料の安定的な保存環境を構築する必要があります。
 - とくに次世代を担う子どもたちへの博物館利用機会を増やす必要があります。
 - 文化財・博物館資料の重要性、存在意義を知る機会を提供する必要があります。

(推進目標と推進項目)

博物館活動 文化財保護活動 推進目標	地域の文化財の保護・保存環境の整備 ～ふるさとの豊かな財産を活かそう～
--------------------------	--

項 目	課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	文化財の保存・資料収集・調査研究 <ul style="list-style-type: none"> ●次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努めます。 ●北海道指定文化財シブノツナイ竪穴住居群、調査研究を継続的に進めてまいります。 ●収集している石器、土器類の分類整理をすすめ、湧別地区の先史文化の調査研究を行います。 ●資料の整理分類をすすめて、特に重要な資料に関しては、データベース・目録等の作成を行い情報公開に努めます。 ●日常生活への応用を資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用します。 ●安定的な資料の保存ができる収蔵庫の建設について検討をします。
	博物館展示 <ul style="list-style-type: none"> ●先史の展示の充実に努めます。(郷土館) ●次世代を担う子供たちに理解しやすい展示づくりを行います。 ●常設展示での収蔵展示を行い展示資料の増加をすすめます。
	博物館教育普及 <ul style="list-style-type: none"> ●文化財(埋蔵文化財・記念物)を知る機会提供に努めます。 ●先史・開拓を知る体験学習を拡充します。 ●学校利用の促進に努めます。 ●出張学習の内容充実に努めます。 ●学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充します。 ●広報を活用し、博物館活動の周知に努めます。

第9節 スポーツ活動・スポーツ施設の 現状と課題・推進目標・推進項目

【スポーツ活動・スポーツ施設の現状と課題】

町民一人一人が心身ともに健康で充実した生活を営むためには、町民のだれもがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる、生涯スポーツ社会の実現を図ることが求められています。町民の健康や体力づくりに対する関心の高まりに伴い、多様なニーズに応じた各種スポーツ教室・講習会や大会の開催、合宿誘致、スポーツ施設の整備など、地域性を生かしたスポーツ活動の推進に努めてきました。

体育協会とスポーツ少年団本部の加盟団体は、町内スポーツ振興の原動力として自主的に活動しており、活動の支援を図ってきましたが、会員の高齢化や少子化による会員の減少や指導者不足等の課題を抱えています。また、子ども達の体力低下やスポーツ離れにより、運動をしない子ども達が増えてきている状況です。

今後もより多くの子ども達にスポーツに接する様々な機会を提供し、体を動かす習慣を身につけさせることが求められています。

近年、青少年の体力低下や成人、高齢者の生活習慣病が増加しており、心身の健康保持増進のために運動習慣が形成されるよう、平成29年度より湧別総合体育館に新しいトレーニング機器を設置し、指定管理者事業として、インストラクターを試験的に配置したところ、町民の利用が増えてきております。今後もより多くの町民に継続的に利用してもらうためのニーズの把握や事業内容の充実が求められます。

スポーツ合宿誘致事業では、野球や柔道、合気道、陸上等の競技団体が町内で合宿し、町民との交流やスポーツへの意識高揚が図られていますが、更に合宿者が持つ高い技術をより多くの町民に還元し、交流を深める機会を提供し、教育的効果を高めるとともに、地域の活性化を含めた事業展開を図ることが求められます。

各スポーツ施設においては、民間のノウハウを活用したサービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度を導入しており、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るためには、指定管理者と連携したサービスの向上への取り組みが求められます。平成29年3月より町全体の公共施設を対象に「湧別町公共施設等総合管理計画」が策定されました。今後はこの計画を踏まえたスポーツ施設の管理運営と計画的な整備に努めながら施設の有効活用、利用率向上に向けた取り組みの推進が求められます。

＜今後の課題＞

- 町民がスポーツに親しむ機会提供と普及を図る必要があります。
- 指導者の発掘・養成や資質向上を図り、指導体制の充実に努める必要があります。
- 体育協会・スポーツ少年団などの関係団体の活動支援の充実に努める必要があります。
- スポーツインストラクター等を配置し、指導内容の充実や町民のニーズを踏まえたトレーニング機器等の整備を図る必要があります。
- スポーツ合宿の受け入れ体制の充実と合宿者が持つ高い技術を町民に還元する機会の提供を図る必要があります。
- 指定管理者の知見を活用しサービスの向上と適正な管理運営に努めるとともに「湧別町公共施設等総合管理計画」を踏まえたスポーツ施設の計画的な施設の改修等に努める必要があります。

(推進目標と推進項目)

スポーツ活動・ スポーツ施設の 推進目標	明日の元気は、きょうのスポーツから
----------------------------	-------------------

項 目	課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	生涯スポーツの普及 <ul style="list-style-type: none"> ● ライフステージに応じた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を定期的に提供し、健康や体力づくりの増進とスポーツを通じた住民相互の交流の推進に努めます。 ● スポーツ合宿者による教室や講習会、町民とのふれあいや交流の機会の充実に努めます。 ● スポーツに特化した楽しい一日を過ごす「町民皆スポーツの日」の創設を目指します。
	活動等の支援 <ul style="list-style-type: none"> ● 体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努めます。 ● スポーツ用具等を整備することにより、スポーツを始めた方への支援に努めます。 ● スポーツ推進委員等によるニュースポーツの研究・普及を図り、町民の健康増進に貢献します。 ● 「するスポーツ」に加え、「支えるスポーツ」として大会等の支援を行うボランティアの確保に努めます。
	学習環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ● 町民のスポーツ活動を推進する指導者の育成や養成を図り、指導体制の充実に努めます。 ● 著名な外部講師等の招聘により、技術向上の習得に努めます。 ● スポーツインストラクター等による個々の体力に応じた運動メニューの作成を推進します。
	連携・ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> ● 住民のニーズを踏まえながら利用しやすいスポーツ施設の計画的な改修等と適正な管理運営、利用実態に即した開館を目指します。 ● 健康福祉分野との連携を図り、運動やスポーツを取り入れた町民の健康づくり教室の開催に努めます。 ● 体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等の連携を図り、町民みんなで楽しめる生涯スポーツの推進に努めます。

第10節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設等の整備の 現状と課題・推進目標・推進項目

【生涯学習の基盤整備と施設等の整備の現状と課題】

生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。

また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。

現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館JRY、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。

しかし、昭和50年代から60年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を行っていますが、まだ整備が必要な施設があります。

施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館JRY、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。

また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成29年3月に策定されたことから、施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが提示されました。この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。

＜今後の課題＞

- 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。
- 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。
- 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。
- 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。

(推進目標と推進項目)

生涯学習の基盤整備推進目標	生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ、いつでも、どこでも、だれでも参加し楽しもう
---------------	--

項 目		課題解決のための方策
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	学習推進体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。 ●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。
	施設整備・活用・連携	<ul style="list-style-type: none"> ●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。 ●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。
	学習情報の収集提供 ・相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。 ●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実に努めます。
	指導者の養成・活用 ・団体の活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。 ●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、サークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。 ●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。
	連携・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。 ●生涯学習に関する情報を収集、データベース化し、ガイドブック等の発行を検討します。

付 属 資 料 （作成中）

- 第 2 次湧別町社会教育中期計画の策定について【諮問文】
- 第 2 次湧別町社会教育中期計画の策定について【答申文】
- 策定審議委員名簿
- 社会教育中期計画の審議過程
- 湧別町の概要
- 社会教育関係団体
- 社会教育委員・スポーツ推進委員
 - ・ 図書館協議会委員名簿
- 社会教育関連施設一覧
- 教育委員会事務局組織図

「第2次湧別町社会教育中期計画」に対するパブリックコメント手続の実施について

1. 政策等の名称

第2次湧別町社会教育中期計画

2. 意見等の提出期間

平成30年 1月10日（水）から平成30年 2月9日（金）まで

3. 趣旨、目的及び背景

平成30年度から5ヵ年の社会教育行政運営の指針となる第2次の社会教育中期計画を策定します。詳細は計画第1章「社会教育中期計画の基本構想」を参照ください。

4. 意見を提出できる方

- (1) 町内に住所を有する方
- (2) 町内に事務所又は事業所を有する個人及び法人その他の団体
- (3) 町内に所在する事務所又は事業所に勤務する方
- (4) 町内に所在する学校に在学する方
- (5) 対象案件に利害関係を有する方

5. 意見等の提出方法

指定様式に記入のうえ、持参、郵送、ファクシミリ、電子メールのいずれかにより提出してください。

- (1) 持 参 湧別町教育委員会社会教育課
- (2) 郵 送 〒099-6404 湧別町栄町2 1 9 番地 1
湧別町教育委員会社会教育課社会教育係
- (3) ファクシミリ 01586-5-3710
- (4) 電子メール shakyo@town.yubetsu.lg.jp

6. お問合せ先 〒099-6404 湧別町栄町2 1 9 番地の1
湧別町教育委員会社会教育課社会教育係
電 話 01586-5-3132

【留意事項】

- (1) ご意見等を提出する際は、住所、氏名及び連絡先を必ず記入してください。
※ご意見等を提出された方の氏名、住所は公表しません。
- (2) 提出されたご意見等は個別の回答は行わず、類似の意見をまとめ、町の考え方を後日公表します。
- (3) 提出された意見は、計画案に反映できるかどうかを考慮した上で、最終的な計画を決定します。

平成29年12月 日

湧別町教育委員会
教育長 刈田 智之 様

湧別町社会教育委員の会
委員長 宮澤 道

第2次湧別町社会教育中期計画の策定について（答申）（案）

平成29年4月27日付けをもって諮問されました、第2次湧別町社会教育中期計画の策定につきまして、第1次社会教育中期計画の反省と評価及び第2期湧別町総合計画を踏まえ、領域ごとに現状と課題を抽出し、全体会議に加え5つの専門部会において、慎重に協議、検討を行いました。なお、専門部会協議においては図書館協議会委員とスポーツ推進委員のご協力を賜りました。

本計画が、湧別町社会教育の推進に反映され「人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる」をテーマとして、社会教育活動の発展を期待し、答申いたします。

(参考)

第2次湧別町社会教育中期計画策定までのスケジュールについて

時 期	内 容
平成28年12月22日 (第3回定例会議)	第1次社会教育中期計画のふりかえり (家庭教育)
平成29年1月25日 (臨時会議)	第1次社会教育中期計画のふりかえり (図書館・博物館文化財・少年教育・青年教育)
平成29年3月24日 (第4回定例会議)	第1次社会教育中期計画のふりかえり (成人教育・高齢者教育・スポーツ振興・基盤整備)
(平成29年4月1日)	(社会教育委員の改選)
平成29年4月24日 (4月定例教育委員会)	教育委員会において、計画策定にかかる諮問についての議案提出
平成29年4月27日 (第1回定例会議)	教育委員会から社会教育委員の会へ諮問書の提出 基本構想の確認、専門部会担当委員の決定、今後のスケジュールの確認 ●社会教育委員の会より、スポーツ推進委員、図書館協議会委員に対して専門部会の立ち上げ(意見聴取)を依頼
平成29年6月 ～9月 策定会議(専門部会)	①「現状と課題」(素案)の協議・まとめ (専門部会ごとに1～2回程度の開催) (素案は第1次計画のふりかえりをもとに事務局で作成)
平成29年10月 (第2回定例会議)	「現状と課題」の集約・審議、社会教育目標の見直し 中期計画テーマの見直し
平成29年6月 ～11月 策定会議(専門部会)	②「推進目標・推進項目」(素案)の協議・まとめ (専門部会ごとに1～2回程度) (素案は第1次計画のふりかえりをもとに事務局で作成。)
平成29年12月 (第3回定例会議)	計画全体の集約と審議、計画(案)の完成
平成30年12月	正副委員長より計画(案)を教育委員会(教育長)へ答申 答申後、1月教育委員会において答申の報告
平成30年1月10日 ～2月9日	パブリックコメントの募集(約1ヶ月)
平成30年2月	計画に修正を生じる場合、必要に応じ社会教育委員の会議を開催し意見を求める。公募結果の公表。
平成30年3月	公募結果および計画の決定(策定)について教育委員会へ提案。印刷・発行